

修士学位評価基準

修士学位は、修士論文あるいはプロジェクト報告書、および、修士論文発表会あるいはプロジェクト成果発表会の審査を以て評価する。それぞれの評価では、以下の観点で審査する。

1. 体裁…修士論文・プロジェクト報告書共通

- ・ 背景、目的、方法、結果、結論が記述されていること
- ・ 引用が適切であること
 - 研究にあっては、先行研究に対する位置づけが明確であること
 - プロジェクト実践にあっては、先行事例に対する位置づけが明確であること
- ・ 論理的に一貫した内容であること
- ・ 単著であること
- ・ 研究倫理および研究者倫理に従っていること

2. 修士論文・修士論文発表会（修士（情報学）学位認定）における評価基準

- ・ 専攻分野における学術的意義を示していること、具体的には以下の項目が示されていること：
 - 理論的見地から独自の価値を有すること（新規性）
 - 実証的見地から独自の価値を有すること（有用性）
 - ◇ なお、研究の新規性と有用性は少なくとも一方が示されていること
 - 研究方法が適切であること（信頼性）
- ・ 修士課程で修得した学修成果を示していること、具体的には：
 - 基礎的な研究能力を有すること
 - ◇ （通常、論文で一通りの研究活動を行っていることが示されればよい）
 - 専門職を担うための当該分野に関する広範/専門的な知識を有すること
 - ◇ （通常、研究において学術的意義を有する活動が出来ることが示されればよい）
- ・ 修士論文における高評価の観点は以下の通り：
 - 情報学分野における学術的意義
 - ◇ 研究の分野における新規性の高さ
 - ◇ 研究の分野における有用性の高さ
 - 当該研究の地域貢献に対する有用性の高さ（応用可能性）
 - 研究開発した技術の地域での実践結果（実用性）

3. プロジェクト報告書・プロジェクト報告会（修士（学術）学位認定）における評価基準

- ・ 地域社会の課題解決へのアプローチを示していること、具体的には以下の項目が示されていること：
 - プロジェクトが対象とする課題とその社会的背景
 - 課題解決のキーとなるコンセプト（体裁の「目的」に対応）
 - コンセプト実現に情報技術がはたす役割
 - 実践のための開発・実装の方法（それらにおける自身の貢献を含む）
 - コンセプト検証のための評価の方法と結果. PoC (Proof of Concept) を含む
 - ◇ この点は、具体的な社会実装による実践評価に代えることができる
- ・ 修士課程で修得した学習成果を示していること、具体的には：
 - プロジェクト実践に有用な情報学に関する知識を有する
 - ◇ （いわゆる「技術的側面」の審査. 情報技術を実践のための開発に適切に活用したことが示されればよい）
 - 地域社会でのプロジェクト実践に対する知識を有すること
 - ◇ （いわゆる「社会的価値」の審査. 価値検証のための評価が適切に実践されていることが示されればよい）
- ・ プロジェクト報告書における高評価の観点
 - 地域社会での実践における価値の明快さ
 - ◇ プロジェクトにおける問題解決達成度合い（有用性、具体的成果）
 - ◇ 開発された情報技術により期待される将来の可能性（将来性、持続可能性）
 - プロジェクトで取り扱った技術等に対する自身の貢献の大きさ（貢献度）
 - プロジェクトのために開発された情報技術の学術的位置づけ（学術的新規性）